りょうかわ

学校だより　令和2年7月27日発行　第7号　新潟市立両川小学校

大成功！にじ色クイズランド

校長　　中村　雅芳

自分でやること，人にやってもらうのではない。そこには喜びの一番深い意味がある。

アラン『幸福論』に書かれた名言です。

楽しみは与えられるものでなく，自らつくり出していくもの。無から想像して，力強く創造していく力は，世の中を変えてきたし，これからもきっと変えていくことでしょう。少々大げさな物言いになりますが，「にじ色クイズランド」に参加して，子どもたちの姿から，そんな思いになりました。

時間がない中で，総務委員会を筆頭に，ふれあい委員会，健康委員会，図書委員会，放送委員会がタッグを組んで，各委員会では６年生がリーダーシップを発揮して，よくもここまで完成度の高いイベントを創り上げたものです。感染防止の観点から「クイズ」という制約をかけましたが，各学年の運営が，出題方法が，多種多様で，クイズの内容も好奇心をくすぐるものばかりでした。さらに，低学年向け，高学年向けと，答える相手によって難易度を変えたクイズを複数用意している姿には脱帽でした。多少密になる場面もありましたが，早押しボタンとして使用したカスタネットを１回毎に消毒したり，釣り竿１本１本の持ち手にラップを巻き付けたり，感染症防止対策を誠実に実行する姿にも深い感銘を受けました。出題する側にも，答える側にも笑顔があふれ，みんながどれだけ楽しんでいるかがよく伝わってきました。

本当に，みんなでよく頑張りましたね。にじ色クイズランド，大成功です！この経験を全員が自信に変えて，次の目標に向かってまた一致団結していきましょう。

【オープニングで踊ったパプリカ】

【釣りとクイズの融合】

【ザ突破ファイルからゲストが‥】

みんなの心をつないだオープニングダンス

ふれあい委員会 委員長　五十嵐　陽悠（はるひさ）

今年は，新型コロナウィルスのために，「にじ色クイズランド」になりました。

ぼくは，ふれあい委員会としてオープニングのダンスを考えました。こんな時だからこそ，「全校のみんなとぼくたちは，元気に学校生活を楽しく過ごせていることを体をつかって表現できるように」と考えました。

たくさん練習をして，本番はみんなで心を一つにして，先生や保護者の方や地域のみなさんに見せることができました。とても嬉しかったです。

手は，ソーシャルディスタンスでつなげないけれど，心はつなげられたと，ぼくは思います。

野呂常夫 理科支援員よりご挨拶

すでにホームページ上でも紹介しましたが，７月８日（水）より野呂常夫 理科支援員からご勤務いただいています。野呂支援員は毎週水曜日に出勤し，理科実験の準備や教材作成，授業補助など，理科に関する様々な業務を担当します。よろしくお願いします。

初めて両川小学校にお世話になったのは，4年前でした。

立派な校舎で，エレベーターに乗って屋上のプールに行きました。プール授業が始まる前に，先生方と高学年の子どもたちとプールの掃除をするとのことで，お手伝いをさせていただきました。まるで，池の鯉や鮒を捕まえているような賑わいでした。プールの水が残りわずかになった時には「もしかしたら小魚くらいはいるかも知れない」と，期待でワクワクしました。

翌年は，鮭放流計画と題して，信濃川漁協から，1,500個の鮭の受精卵を提供して頂き，12月初め頃から，玄関と理科室の水槽で飼育を始めました。10日程で，玄関の水槽で孵化が始まり，毎朝，子どもたちが水槽を覗いて喜んでくれたようです。理科室の水槽は，子どもたちの声援が届かないためか（？）孵化するのが遅れました。翌年の2月には，漁協の組合長さんから講演会をしていただき，待望の放流は3月16日に決まりました。5，6限に両川公園の信濃川へ子どもたちの手で放流されました。4年後には大きく成長して，生まれ故郷の信濃川を遡上して来ることでしょう。

稚魚を放流した子どもたちは，一足先に成長して中学校へ進みました。今年度は子どもたちとどんなことがあるのか，楽しみにしています。どうぞ宜しくお願いいたします。